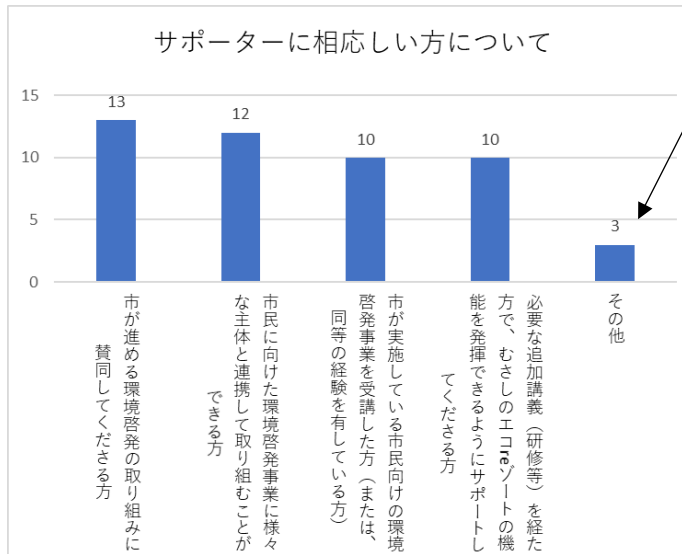


## サポーター制度についてのアンケート集約結果（回答数 15 名）

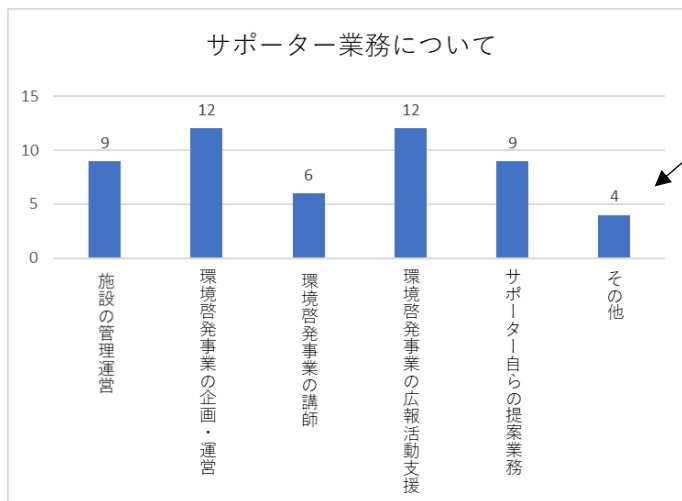
## 1. サポーターに相応しい方について（必要と思われるところすべてに✓）



## サポーターに相応しい方 その他

- ✓ 人が好き
- ✓ 上記（1）の考え方と（2）の例示された業務内容に乖離を感じる。（2）は言わば雑務処理であり、（1）は企画運営のために必要な広範囲な知識や専門知識、実務経験などを必要とする。（2）の無償ボランティアを養成して（1）の業務を担当させる考え方に、無理があるように思える。（1）の人間と（2）の人間は全く異なると思う。
- ✓ 市内の学校関係者（小～大学）で環境啓発に関心を持った方

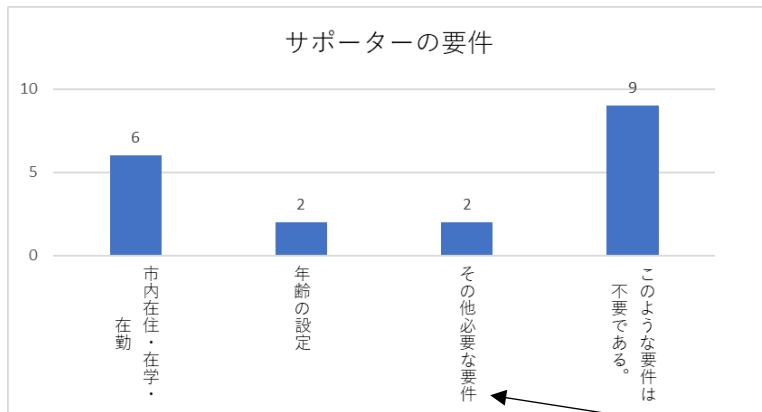
## 2. サポーターの業務について（必要と思われるところすべてに✓）



## サポーターの業務について その他

- ✓ 7. その他に記載
- ✓ これまでの経験や関心のあること、得意とすることなど、この場で生かしていけたらいいのでは
- ✓ 上記したように、無償ボランティアの成長を見込んでの業務内容が例示されているが、これは無理であり、企画運営には広範な知識、専門知識、実務経験などを持つ人が、さらに勉強・自己研鑽しながらエコリゾートの将来を考え職務として（有償）、実行してもらうことにすべきと思われる。
- ✓ プロジェクト、イベントの準備、運営、片付けなど…必要な道具、材料の調達など、つまり縁の下の力持ち

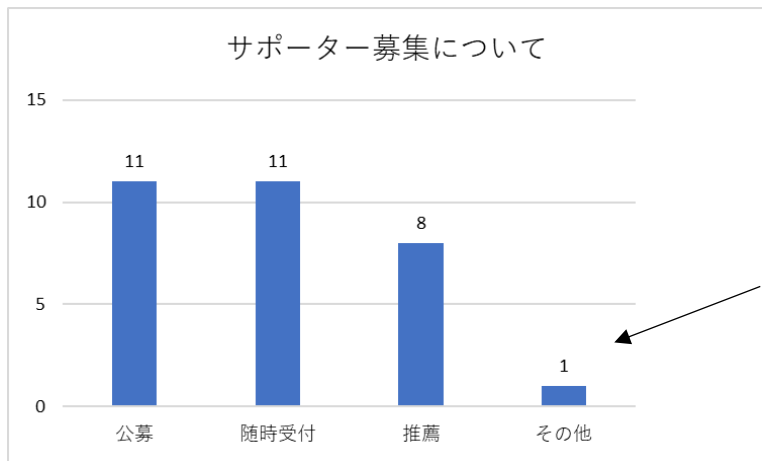
3. サポーターの要件について（必要と思われるところすべてに✓）



その他必要な要件

- ✓ 市外の場合はサポーター・エコレゾート関係者からの推薦
- ✓ 心身とも健全であれば年齢は問わずと思うが、コミセン現場などを見ると 80 歳～85 歳が曲がり角？

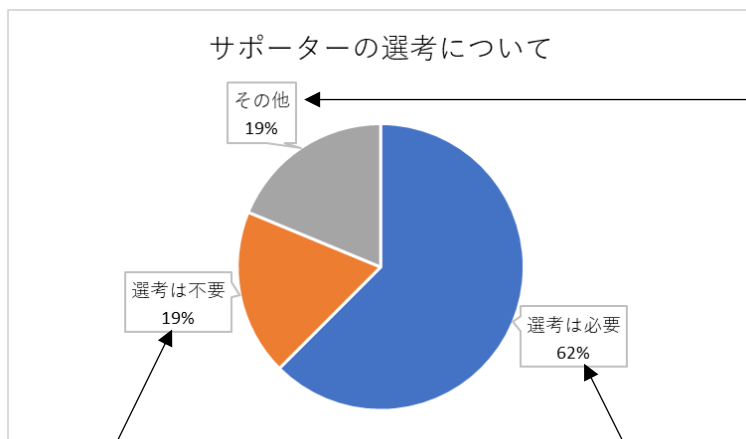
4. サポーターの募集について（必要と思われるところすべてに✓）



サポーター募集について その他

- ✓ なぜ、このようなことまでアンケートを取るのか理解できない。もっと市が考えをもって、市が主導で進めてよいのではないか

5. サポーターの選考について（いずれかに✓）

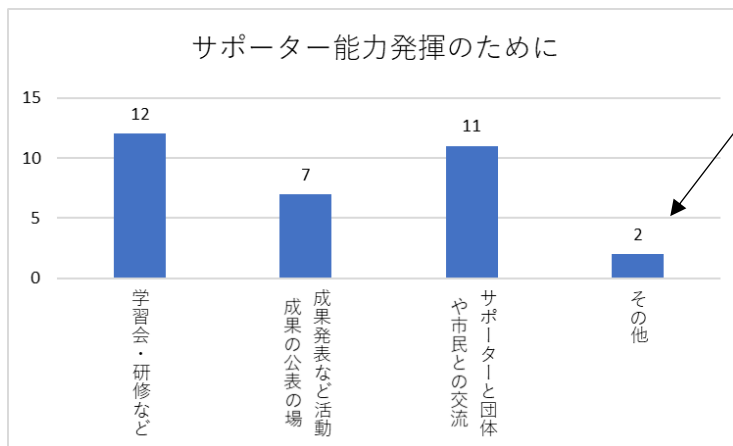


- ✓ なぜ、このようなことまでアンケートを取るのか理解できない。もっと市が考えをもって、市が主導で進めてよいのではないか
- ✓ よくわかりません
- ✓ 具体的な選考方法はまだわかりませんが、何らかのものが必要でしょう。

- ✓ 但し、人数制限や年齢のバラツキは必要か
- ✓ 無償でボランティアをしようとする人に選考には違和感がある
- ✓ 熱意が第一、あとはおいおいと学ぶ

- ✓ 理念共感適合者を選ぶ 方法：面談又は書類選考
- ✓ 市民向けの環境啓発事業・同等な説明会を受講若しくはサポーターとなった後、受講可能なこと(サポーター・エコレゾート関係者の推薦及び中学生以下は除きます)
- ✓ 誰でも良いというわけではないと思います。

6. サポーターの能力を発揮していただくために、あればよいものは何でしょうか。(必要と思われるところすべてに✓)



- ✓ 無償サポーターとして雑務処理の業務内容で募集した人を、養成していく考えには無理があると思う。環境問題は幅が広く深い。浅薄な知識でやれるものではないと考える。エコ・リゾートの文字通り、コミセンやテンミリオンと同等に楽しい場所、集いの場所として運営していくのであれば一通りの浅薄な知識で対応できるかもしれないが、武蔵野市は都内 23 区に対して、環境を守る最前線基地としての地位と名声を得ようとするならば、もっと真剣に人材選定、プログラム企画などを考え実施すべきである。
- ✓ 道具、材料集め、人集め、素材づくり、展示、アイデア集め

7. その他（サポーター制度に関して、ご自由に記載してください。）

- ✓ サポーターの業務については、むしろ事務局の方でサポーターにどういう役割を期待されているのかを知りたい。あくまでも主役は事務局でサポーターはサポート役にすぎないのではないかと考えられます。
- ✓ このようなサポーターは集まるのかどうか、よく分からないのですが、多くの人が対象になるように最初はハードルを下げたほうがよいかと思います。
- ✓ 利用（来場）者が利用しやすい
- ✓ 上記したように、エコ・リゾートを、集客を主目的として、エコリゾートの文字通り、コミセンやテンミリオンハウスと似たような、楽しい場所、語らいが出来る場所を考えているのであれば、今回のアンケートでも色々な注文がでてくると思われます。集客すれば、環境問題が周知され、SDGsに見合った行動を市民がとるであろうと考えるのであれば、このような進め方でもよいかもしれませんが、果たしてそうなるか疑問が残ります。

一方、武蔵野市がリーディングシティとして、環境問題を真剣に取り組み、環境問題の発信基地、エコセンター、エコアクション・プラットホームとして、大学教授、専門家など、この会場の使用を広く公開して、常に環境問題・情報を発信するセンターであり、こうした面での文化都市であって欲しいと小生は考える。中高生などの環境問題の勉強の場であり、発表の場であって欲しいと思います。これまで武蔵野市は裕福な財政を背景に福祉都市宣言を行い、福祉政策はかなり力を入れて進めてきております。市長を始めとして市議会議員など選挙で選出される方々は、どうしても票田が大きい福祉分野の施策に力を入れます。でも、これは財政が豊かであったから出来たことです。通勤に便利、買い物に便利、住環境が良いという3つの利点により、住みたいまちとしてブランドを高めてまいり

ました。日本全国の市町村の中で2番目に人口密度が高い武蔵野市では、今まで残されてきた緑（歩いて目に入る緑、民間の庭木・生垣の緑が多い）があつて住環境が良いとの印象を受けますが、相続などで消えていく危うい緑であり、住環境が悪化すれば、都内23区と同じ超人口過密都市となります。そうすると、高額給与所得者による税収で財政豊かであった武蔵野市はどのようなでしょう。リモートワークができる世の中になりましたので、武蔵野市から脱出することも考えられます。市内に残る団塊世代の人間も年金暮らしになります。武蔵野市の税収は先細りになるでしょう。武蔵野市に高額給与所得者を呼び集める策が必要になります。

緑が減少し、住環境が悪化したら、武蔵野市に住み止めさせる策としては文化都市としての名声と位置づけが必要になるでしょう。（中略）

小生は、今後の武蔵野市の税収を確保し、武蔵野市民であることに誇りを持たせる意味でも、エコ・リゾートはSDGsのリーディング都市、環境問題発信都市とすることが必要であり、単なる楽しい集いの場所ではなく、エコアクション・プラットホームの場所であつて欲しいと願っております。環境部は将来の武蔵野市の在り方を考え、もっと予算をつけて本格的に環境問題に取り組んで欲しいと思います。

当初から、予算がつかないのでと委縮した考えになっているように感じます。現況の武蔵野市民の意識では、並びに市民から選出された議員などの意識では困難が多いとは存じますが。（略）

- ✓ サポーターを、例えば任期5年とかに定め、その後はエコリゾートを利用しつつ新たな自分の活動を発展させていくようなことも一部であってもいいかもしれません。サポーターをすることで成長していける、つながっていくしくみはいかがでしょうか。

今、私は家の事情でエコリゾートになかなかいきませんが、材料を集めたり（個人で集める他、人に呼びかけて集める）新聞広告を集めてゴミ箱をつくったりしています。こういう参加もありと思います。

- ✓ サポーターの任期は、1年更新にして、新しく関われる人の窓口を作してほしい。  
（ベテランも必要かもしれませんが、長くなると弊害も考えられます。）
- ✓ （3. サポーターの要件が不要であることへの補足：）上記（2）の無償ボランティアとしての業務内容であれば、市内在住・在学・在勤、および年齢の設定が必要であるかと思われるが、（1）の職務内容であれば、上記のような条件ではなく、適材を広く求めることになる。